歴史総合-DX

 **1875年①（明治8）　立憲政体の詔**

前年の1874年（明治7）1月に、征韓論で敗れた前参議・板垣退助、後藤象二郎ら高知県人が、政府に対して「民選議院開設の建白書」を提出し、議会/国会を開設せよとの第一声をあげた。2月には佐賀県で不平士族の騒動（佐賀の乱）に、征韓論者で同じ佐賀県人の元 司法卿の江藤新平、政府からは島義勇（よしちか、開拓使主席判官）が派遣されたが、政府の高圧的態度に義憤した両人が、 内務卿の鹿児島県人の大久保利通の策謀で「反乱」とされ、島が逮捕されて処刑される事件が勃発した。さらに4月には板垣退助らが高知に政治結社「立志社」 を設立して反政府活動を開始した。年が明けた1875年（明治8）に分裂した政権の修復が試みられ、政権にあった井上馨の斡旋で伊藤博文、大久保利通、野に下った板垣退助、同じく台湾出兵に異を唱えて野に下った木戸孝允が大阪の料亭「加賀伊」（後の花外楼）で手打ちし（大阪会議）、立憲体制を整えることで一致して政権の内紛が終了、4月には天皇から「立憲政体の詔（みことのり）」がだされ、元老院（後の貴族院の前身）・大審院（戦前の最高裁判所）が置かれることとなった。